



ほけんだより

18年度7月号
明照保育園



【子どもの健康状態】



6月中の主な欠席理由は発熱でした。感染症の報告としては、やはり手足口病（幼児6乳児5）が多く、次いでおたふく（幼児1乳児5）、夏かぜと呼ばれるヘルパンギーナ（幼児2）、水痘（乳児4）でした。他にも水いぼやとびひなどの皮膚病も出ています。

【検便（寄生虫卵検査）について】

6/2に提出した前検の結果が6/23に出て、どの子も寄生虫卵は検出されませんでした。前検に未提出だった子は、7/14（金）の後検で必ず提出下さい。後検も提出できなかった場合、個人で医療機関にて検査し、結果を園まで報告してもらうこととなりますので、必ず提出するようお願いいたします。

後検 7/11（火）配布 7/12・13・14 朝回収

【気をつけよう 夏の病気】

ヘルパンギーナとは・・・夏かぜの一種で、のどの奥に水疱ができ高熱が出ます。水疱がつぶれると痛みがあり、食欲が無く不機嫌になります。

プール熱とは・・・夏かぜの一種で、発熱、のどの痛み、結膜炎などの症状があります。プールで感染することが多いため、こう呼ばれています。



かかってしまったら・・・汗と高熱で脱水症状を起こしやすいので、水分補給を心がけましょう。
高熱が出たら医師の診断を受けましょう。

調理に工夫を・・・のどの痛みが激しい時は、かまずに飲み込めるものにしてしまおう。痛みを刺激するような熱いもの、冷たすぎるもの、酸味のあるもの、塩味のきついものは避けるようにしましょう。

予防にはやっぱり

うがい てあらい



【他の子にうつる前に予防しましょう】

アタマジラミ・・・子どもの髪の毛に寄生します。頭のかゆみや不快感などがありますが、症状のないことが多いようで、気付くまでに1カ月くらいかかることが多いです。プールの時期に多く、接触するとうつります。後頭部や側頭部に多く、フケと間違いやすいですが、髪の毛に付着しているので、簡単には取れません。

うつってしまったら・・・病院や薬局で相談し、駆除をしましょう。

寝具、衣服などをよく日干ししましょう。シーツ、まくらカバー、帽子は熱湯で洗いましょう。

集団生活の中で、かかっても軽くすむ子と、ひどくなくて他の症状も合併してしまう子等、体質によって様々です。他の子にうつさないためにも予防しましょう！！



水いぼ・・・ウイルス性のイボで、硬くてつやがあり、真ん中がくぼんでいます。脇の下、脇腹、股の付け根など、皮膚と皮膚がすれ合うところによくでき、イボがつぶれるとうつります。接触により直接感染します。タオルなどから間接接触もします。

うつってしまったら・・・放っておくと体中に広がります。ひとつでも水いぼを見つけたら、すぐに病院へ行きましょう。（時間をかければ自然に治りますが、集団生活をしていると他の子にうつしてしまうことになります。）



とびひ・・・虫さされやすり傷に菌が入り、感染する皮膚病です。透明な水疱ができ、それが白く濁ってきます。水疱は破れやすくかゆみもあるため、かきむしることで菌がうつってしまいます。

うつってしまったら・・・子ども自身の体だけでなく、他の子にうつってしまいます。なるべく早く医師の診断を受け水疱をガーゼなどで覆いましょう。



【おわりに】

梅雨明けも間近で暑い日が続きますネ。夏は体力の落ちる時期です。睡眠・食事・適度な運動と、日頃からの生活リズムがより大切になってきます。早めに就寝して疲れをとり、食事をしっかり食べて、元気に遊びましょう！！